スジボソヤマキチョウ　*Gonepteryx aspasia niphonica* Bollow

【選定理由】

かつて本種は、愛知県の山間部から平地にかけて広く分布していたが、個体数は多くはなかった。1976 年以降、成虫の記録がないまま現在に至っている。

【形　態】

前翅長 35mm 程度。♂の翅表は鮮黄色、♀は黄白色をしている。ヤマキチョウ（本県では迷蝶としての記録がある）と紛らわしいが、♂♀ともヤマキチョウに比べて翅は薄い感じで、後翅裏面第 7 脈がヤマキチョウのように他の脈に比べて膨らんでいないことで区別される。また、前翅前縁から外縁および後翅外縁はヤマキチョウのように濃い桃色を帯びていない。本州中部の山地産の成虫は、翅のとがりが強い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村（旧豊根村、旧富山村）、設楽町（旧設楽町、旧津具村）、新城市（旧新城市）、豊田市（旧小原村、旧足助町、旧旭町、旧稲武町）、瀬戸市、岡崎市や名古屋市内など丘陵・山間部から平地にかけての記録がある。

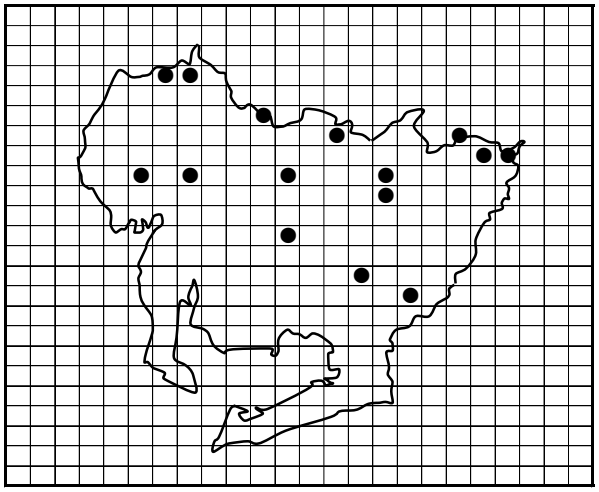
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。中部以南の暖地では、主として山地に見られ平地で観察されることは稀である。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

生息範囲は、疎林や林縁から落葉広葉樹林の内部まで、地形も平坦地、緩斜面や急斜面など広範囲に及んでいる。年 1 回の発生で、6～7 月に羽化し、短期間活動して仮眠にはいり、秋再び現れて活動する。成虫で越冬する。春に出現する個体は、翅の裏面の汚れが目立つ。卵は、食樹の細枝や茎に 1～数個並べて産み付けることが多い。北設楽郡でクロウメモドキ科のクロウメモドキに産卵することが確認されている（高橋, 1984）。

【現在の生息状況／減少の要因】

ここ 43 年間は成虫が確認されないまま現在にいたっている。1980 年代からいずれの産地でも姿を消している。その理由は不明であるが、食樹のクロウメモドキの減少によるものと考えられる。食樹の減少をみると、混交林の繁茂・管理放棄が本種の激減と無関係でないことが窺い知れる。

三重県では、食樹が生育していても本種が確認できない（後藤・中西, 2015）という。また、かつて多産した鈴鹿山脈北部の藤原岳でも激減して久しいという。

【保全上の留意点】

本種の食樹は、クロウメモドキ科に絞られるので、三河山間部での生育のよいクロウメモドキ生育地を定点観察拠点として、長期のモニタリングを実施して、保全のためのデータを積み上げるのが望ましい。かつて多数の記録があるのに、新知見がでてこないことを考慮すると、絶滅している可能性もあると思われる。

【引用文献】

後藤 勇･中西元男, 2015. スジボソヤマキチョウ. 三重県レッドデータブック 2015~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~: 155. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.

高橋 昭, 1984. チョウ類. 愛知の動物: 121. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

【関連文献】

巣瀬 司ほか, 2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第 5 集. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト(2002 年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.

（2009 年版を一部修正）